

古代都市メッセネのスタディオン地区調査報告(1) スタディオンの概要

正会員 ○吉武隆一* 伊藤重剛**

ギリシャ メッセネ スタディオン ヘレニズム

1. メッセネ及びスタディオン地区の概要

メッセネは、ペロポネソス半島南西部に位置する、ギリシャの古代都市遺跡で、紀元前369年にエパミノンダスによって建設された。熊本大学伊藤研究室ではメッセネ考古学協会が行っている発掘調査に参加して、1997年から毎年メッセネの南端にあるスタディオン地区の建築学的な調査を行っている。

古代メッセネはメッセニア平原を見下ろす山間部に立地しており、都市全体を周囲約9キロの城壁が取り囲んでいたが、現在そのうち城壁部分数百メートルとアルカディア門が良好な状態で残っている。現在市域の殆どはオリーブ畑であるが、市中央部にはアスクレピオス神域、劇場、ニンファイオン(泉水場)などがこれまでに発掘されており、スタディオン地区は都市の南端の城壁に隣接するところから出土した。スタディオンは南北方向の浅い谷を利用して作られており、これを三方からコの字型に囲むようにストアが配置され、ストアに接して北西隅にプロピロン、西側に3基の墓廟、および南西部にパラエストラが配置されている。また、南端の城壁の上にはヘローン(英雄殿)がある。発掘は毎年少しずつ進行しており、スタディオンの遺構そのものについては、2000年夏の段階で発掘はほぼ終了し、これによってスタディオン遺構の大半が明らかになった。本稿では、これまでの発掘の経過と1997、1998年度にラジコンヘリを使った航空測量による調査結果について報告する。

2. スタディオン遺構

実測は、スタディオン地区全体の航空写真を撮り、これを解析して図面化した。

メッセネのスタディオンは平面が馬蹄形をしており、北

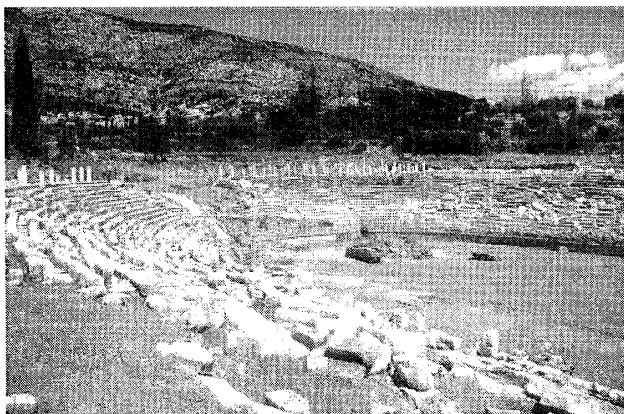


写真1 スタディオン北側

半分だけに石造の座席を配している。(図1) 石材はこの地方から産出される風化しやすい石灰岩である。南側は恐らくオリンピアのスタディオンのように座席はなく、土の斜面になっていたものと推定される。全体の軸線は、正確には北よりもやや東側を向いており、周囲のストアや道路もこれに従っている。(図4) 北側客席の中央部分は谷の水流によって破壊されているものの、大半はかなり良好な状態で残っている。座席部分の最大長さは約65m、最大幅は約60mで、東、北、西側の約10~15m後方にストアが配されている。トラックのスタートラインとゴールラインの間隔は通常600ftつまり1スタディオンだが、このスタディオンでは150mしかとれず500ftで造られたようだ。スタディオンの南端は城壁に接し、城壁の上にはヘローン(英雄殿)が造られており、この前にスタートラインがあった。トラックの幅は約29mである。しかし、東と西の客席が南に向かって少し開いており、これはおそらく周囲のストアと同じく地形に沿って建設したためではないかと思われる。

座席の段数は19段で、その傾斜角度は約25.3度である。(図3) 座席全体は北側円形部分が9つ、東側が5つ、西側が4つ、合計で18のブロックに分割されていることが確認できる。それぞれのブロックは幅が約6m、ブロックの間には幅約0.7mの階段がある。

2000年夏の発掘によって、座席部分の南端でトラックを半円形に仕切ったローマ時代の壁が出土した。これはローマ時代に円形闘技場に改築したもののと思われる。(図2) このとき座席内縁部も壁を作って高くし、さらにその外側に金属製の柵を作った痕跡が見られるので、ローマ時代に円形闘技場に転用されたことは間違いない。

東側の客席の中央部分には、背もたれのついた主賓席が

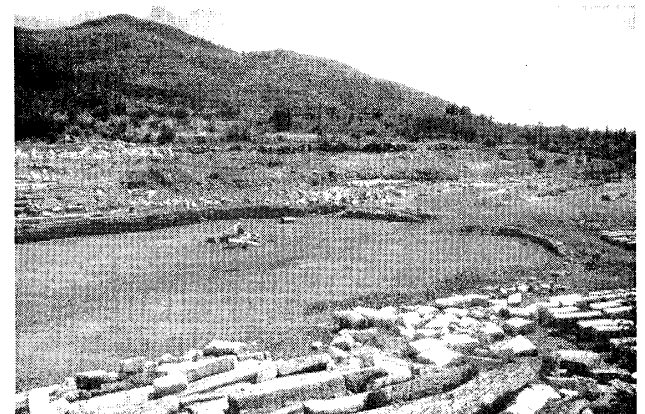


写真2 スタディオン南側

A Study of the Stadion Area in Ancient City of Messene (1): Outline of the Stadion

YOSHITAKE Ryuichi, ITO Juko

あって、1人用の席が一つと4~5人用の席が一つ並んで設置されている。トラックに面する腰壁の天端部材には、約2mおきに一文字ずつ大きな文字が刻まれて、スタディオン寄進者の名前が記してある。また北側の客席の一部には、座席所有者のイニシャルが刻まれており、座席の一部は特定の人ないし家族の固定席だった。

3. まとめ

メッセネのスタディオンは、三方をストアに囲まれた特異なものであり、左右対称で軸線的な平面形状はヘレニズム期の特徴を示している。トラックが短い理由は、何らかの理由で建設が中断されたためか、ローマ時代に座席を途中から破壊して円形闘技場を建設したことなどが考えるが、はっきりとしたことは不明である。このスタディオンは、パレエストラやストアを含むギムナシオン複合体として作られた体育施設の一部であり、古代ギリシャのギムナシオ

ンにおける建築史的な位置づけを、今後の研究で明らかにしたい。

謝辞 本研究は平成11~13年度日本学術振興会科学研究費(基盤(A)(2)海外) 課題番号11691154による助成を受けました。記して謝意を表します。

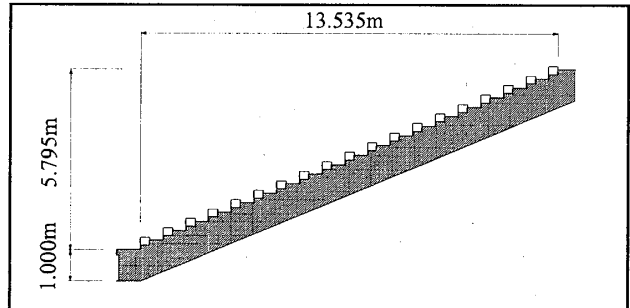


図3 スタディオン断面図



図4 スタディオン平面図(1998年)

*熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程

*Graduate School of Science and Technology, Kumamoto University, Student

**熊本大学大学院自然科学研究科助教授・工博

**Graduate School of Science and Technology, Kumamoto University, Assoc. Prof., Dr. Eng.